

## 調 査・研 修 報 告 書 (会派個人用)

会派名： きずな

報告者： 林 高正

実施場所：第 3 回 中山間地域の諸課題解決 セミナー（世羅町）	実施日：平成 29 年 11 月 25 日～26 日
<p><b>■目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など）</b>  中山間地域の諸課題解決に特化したセミナーであり、今回は、世羅台地で行政に頼らない経営を目指し、地域の農業に新たな活路を開拓されている事例を研究することとする。</p>	
<p><b>■参考とすべき事項</b>  農事組合法人世羅高原農場における花観光への取り組みを聞かせていただきました。出発が葉タバコ生産であったことに少し驚きましたが、その生産技術が花の栽培にも活かされているようで、経験することで無駄なことは無いと感じました。そして、時代の先取りと言うか、SNS の積極的活用により国内はもとより海外観光客獲得にも成功しておられ、尾道松江線を積極的に活用し各地の観光施設とも連携されていることを聞かせていただき、懐の深さを感じることができました。  農事組合法人グリーンファームせらは、各地の農業法人を、今はゆるやかな連携組織として運営しているが、将来的には 1 本化したものに組織改編するそうである。稲作が基本で、グリーンファームせらによる米づくり一環体制が目標だそうです。そのために、精米工場も新設する計画になっていると話されていました。また、キャベツなどの野菜類も栽培されており、米価の変動に対応できる体制も構築されていると感じました。</p>	
<p><b>■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など）</b>  本市には、オープンガーデンという個人庭園を一般客に公開する取り組みがなされていますが、四季を通じて公開できる仕組みを考えてみることも必要かと考えます。つまり、備北バイオの里づくり推進協議会として取り組んで欲しい課題だと思います。当然、備北丘陵公園の花に関するノウハウもいただきながら、花のまち庄原にしていきたいと思います。  農事組合法人グリーンファームせらの事例は、いずれ庄原の農業法人も考えなければならぬ後継者問題に対する一つの答えであることは間違いありません。どうにもできない状態になった時点で考えるのではなく、各地の事例を研究しながら、庄原市の農業政策や施策を決定すべきです。本当に、農業で生計が立てられる庄原市にするには、今がチャンスと捉えるべきだと思います。</p>	

※ 調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。

平成 29 年 12 月 1 日

## 調 査・研 修 報 告 書 (会派個人用)

会派名： きずな

報告者： 徳永泰臣

実施場所： 世羅郡世羅町 世羅の宿ひがし

実施日： 平成 29 年 11 月 25～26 日

### ■目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など）

#### ○中山間地域の諸課題解決セミナー

今回は農事組合法人 世羅高原農場の吉宗誠也氏による取り組みと、株式会社グリーンファームせらの取り組みについて研修を受けました。

### ■参考とすべき事項

○世羅高原農園は当初、葉タバコの生産組合、旭鷹農園として産声をあげたが、価格低迷・連作障害に見舞われ、広大な畑を荒らさないようにと植えたひまわりが花観光のきっかけとなり、現在は標高 540mの地の利をいかした、イングリッシュローズを中心としたバラの観光農園、芝桜・チューリップなどの観光農園を展開され、年間 23 万人の入込客を実現されている。

○(株)グリーンファームせらは農業を担う若者の減少、農業者の高齢化、生産資材の価格高騰や農産物価格の低迷により、極めて厳しい農業経営を余儀なくされている。こうした課題解決するため、6 法人が新たに株式会社を設立し、生産コストの低減など、地域の課題解決に向けた取り組みをされている。

### ■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など）

○特に本市はオープンガーデン・備北丘陵公園で多くの入込客を受け入れている。こうした取り組みも大切と思うが、今後は世羅高原農場などとも連携し、尾道松江道を活用し、沿線の市町が連携した広域的な観光事業の展開が必要と思う。

※ 調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。